



戦時中の様子を蓼田さんが描かれた絵

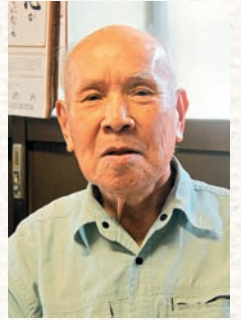
昭和18年
出兵される前に撮られた写真

錦江に生きる

From young people in the future

◎このコーナーは、町内で頑張っている方を中心に紹介しています。
第93回目は、半ヶ石自治会の蓼田 栄さんです。

◎93回目 【半ヶ石自治会】 蓼田 栄さん



今月号は、今年戦後70周年であり、貴重な体験を後生に伝える為、本人も戦地に行かれた半ヶ石自治会の蓼田栄さん(94歳)を御紹介します。蓼田さんは昭和18年に鹿児島歩兵第45連隊として出兵されました。

「当時私が22歳でした。ソロモン諸島に約2年半、警備隊として任務を遂行しました。」

主に、仲間の為に野営テントの設営、食料調達、洗濯などの後方支援部隊でしたが命がけでした。

先輩からこの部隊は特に死ぬ確率が高い、なぜなら現住民、敵軍からの攻撃を両方受けやすいからだと言われた時は、幾らお国の為とはいえど、大変な部隊に来たなというのが本音でした。

現地では、常に生死をかけていたので必死というものではありませんでした。1200人いた戦友も1人また1人と減り、朝を迎えるまで、長く感じました。

昼は敵軍からの攻撃が陸空からあり、洞窟や、野営テントで寝る時も現住民からの攻撃を度々うけ、寝る時も機関銃を抱いて寝ていました。

中でも苦勞した事が食料調達

でした。食べる物も殆ど無く、蛇・蛙・鼠など大概の物は食べました。が攻撃が激しい時は身動きができず、3日間吞まず食わずを強いられた時もあり、体力の無い者から死んでいきました。

ある日、パイプヤの木を見つけ仲間と採りに行った際、私達の真上を敵軍の飛行機が飛んで来ました。

この時ばかりは、覚悟を決めました。

大量の葉莖が降り注ぎました。が無傷ですみました。命がけとはまさにこういう事だと実感したと共に、仲間と生きている事の喜びを分かち合いました。

もう一つは、マラリアの感染でした。約3日間40℃以上の熱が続き、体力を奪われ戦友が死んでいきました。今考えると敵襲より厄介だったかもしれないですね。私自身も何回か、感染しましたが、幸いにも体力には自信があったので軽い症状ですみました。

戦死・病死等で次々に戦友が死んでいく姿を見るのは本当に辛く心が痛みました。今でも鮮明に覚えている事が、戦友が死ぬ間際にかすれた声で、お母さん…と囁いたのが耳に残って忘れられません。

戦況は悪くなるばかりで、ついに私達は約6ヶ月ほど捕虜になりました。

そこでも、過酷な労働をさせられ、死んでいく者もいました。

EDITORS

●最近朝晩涼しくなってきました。夕涼みをしながら、虫の鳴き声を聞くと癒されます。やはり一番好きな音色の持ち主は鈴虫(∩o∩) ★

なんとか生きようと強い意志を持ち続け、昭和21年によくやく半ヶ石に帰って来ました。

翌年結婚をし、農業をしながら、4人の子供にも恵まれました。帰って来てからも色々苦勞はしましたが、戦地に比べれば、楽でした。」

今年94歳になられる蓼田さん、元気の秘訣はなんですか?と訊ねると「毎朝散歩をし、良く食べる事です。それと週に3、4回地域の方とゲートボール等を楽しみながら話す事が生き甲斐になつており毎日が楽しいです。」

「最後に、今こうして幸せな時間を過ごせるのも日本が平和だからです。今後二度と戦争を起すことはないけません。」

今回貴重な体験をお話してくださった蓼田さん、戦争を知らない世代に語り継ぐ事も大事です。ねと話してくださいました。これからも元氣にお過ごしください。

町営住宅 空き家情報

(9月1日現在)

大根占地区

- 公営 港団地…………… 2戸
- 町営 京町団地…………… 1戸
- 町営 宿利原定住促進住宅…… 2戸
- 町営 池田川北住宅…………… 1戸
- 町営 旧池田中教職員住宅…… 1戸

田代地区

- 公営 溝下住宅…………… 2戸
- 町営 昇陽住宅…………… 1戸

お問い合わせ及び入居希望の方は、本庁建設課へご連絡ください。

休日の在宅当番医

月日	病院名	電話番号
9月13日	長浜医院	22-0137
20日	じょうさいクリニック	24-3117
21~23日	肝属郡医師会立病院	22-3111
27日	濱畑クリニック	25-2575
10月4日	藤崎クリニック	22-2238

※諸事情により変更となる場合がございますので、ご利用の前にお問い合わせください。

人口の動き

平成27年9月1日現在

	人口	前月比
人口	8,271人	(△33)
男	3,884人	(△20)
女	4,387人	(△13)
世帯数	4,051戸	(△13)

住民基本台帳法改正に伴い、外国人住民も含まれます。

